

2019/4/15

柏の景気情報（平成31年3月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
T E L : 04-7162-3305
F A X : 04-7162-3323
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成31年3月分）

○ 調査期間：平成31年3月26日～平成31年4月8日

○ 調査対象：柏市内156事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	73	46.8%
建設	44	21	47.7%
製造	33	16	48.5%
卸・小売	44	23	52.3%
サービス	35	13	37.1%

○ 調査方法と調査表：下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1増加他の回答割合 - 3減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成31年3月の業況についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲17.8(前月水準▲24.3)となり、マイナス幅が6.5ポイント縮小した。

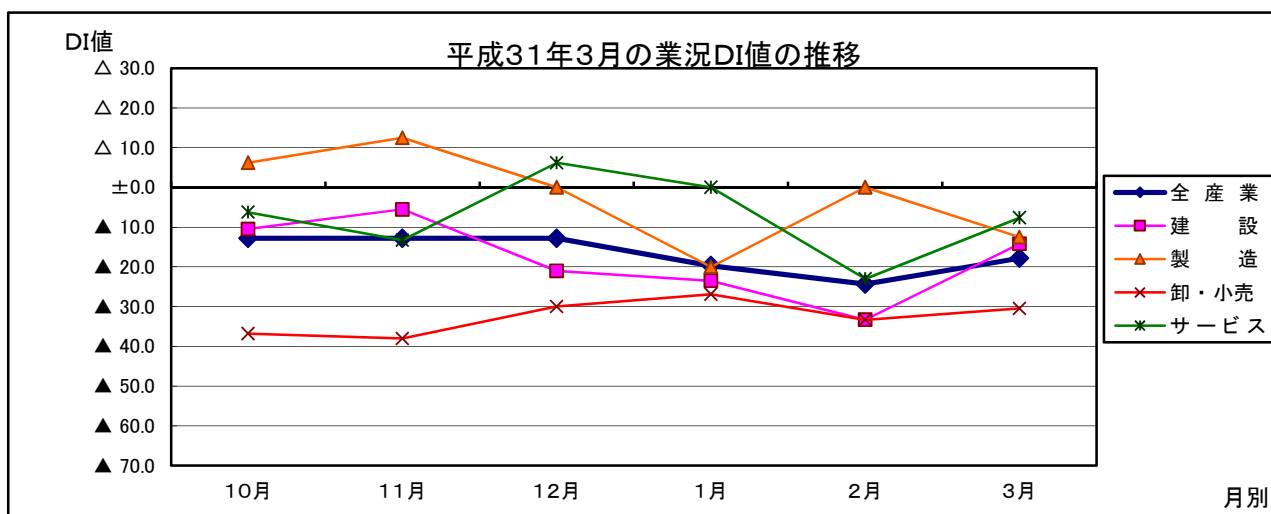
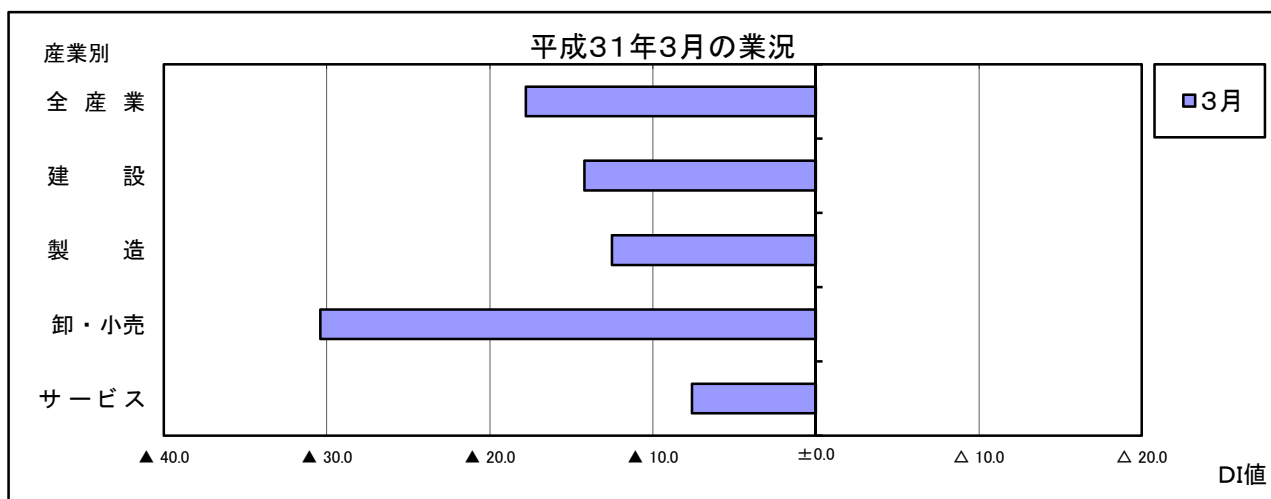
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲14.2(同▲33.3)、サービス業▲7.6(同▲23.0)、卸小売業▲30.4(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲12.5(同±0.0)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.1(前月水準▲13.5)となり、マイナス幅が5.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△12.5(同△6.2)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲23.8(同▲28.5)である。変らない見通しの業種は、サービス業▲7.6(同▲7.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲43.4(同▲16.6)である。

平成31年3月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 10月	11月	12月	平成31年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月～6月(3月～5月)
全産業	▲12.8	▲12.8	▲12.8	▲19.7	▲24.3	▲17.8	▲19.1(▲13.5)
建設	▲10.5	▲5.5	▲21.0	▲23.5	▲33.3	▲14.2	▲23.8(▲28.5)
製造	△6.2	△12.5	±0.0	▲20.0	±0.0	▲12.5	△12.5(△6.2)
卸・小売	▲36.8	▲38.0	▲30.0	▲26.9	▲33.3	▲30.4	▲43.4(▲16.6)
サービス	▲6.2	▲13.3	△6.2	±0.0	▲23.0	▲7.6	▲7.6(▲7.6)



【平成31年3月の売上についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12. 3(前月水準▲21. 6)となり、マイナス幅が9. 3ポイント縮小した。

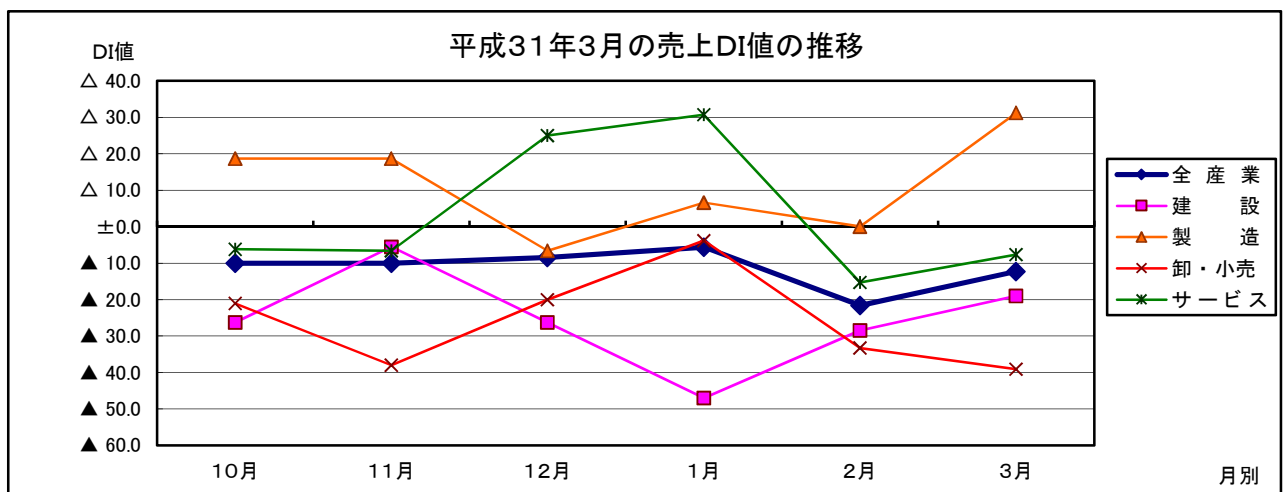
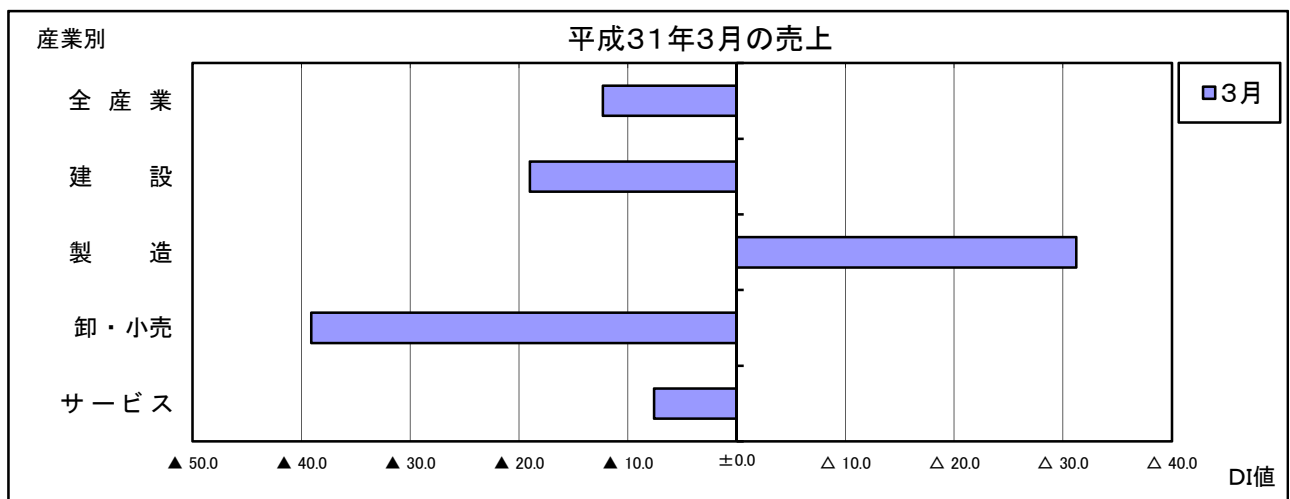
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△31. 2(同±0. 0)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲19. 0(同▲28. 5)、サービス業▲7. 6(同▲15. 3)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲39. 1(同▲33. 3)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15. 0(前月水準▲4. 0)となり、マイナス幅が11. 0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△15. 3(同△7. 6)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業△6. 2(同△18. 7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲34. 7(同▲12. 5)、建設業▲28. 5(同▲19. 0)である。

平成31年3月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 10月	11月	12月	平成31年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月～6月(3月～5月)
全産業	▲10.0	▲10.0	▲8.5	▲5.6	▲21.6	▲12.3	▲15.0(▲4.0)
建設	▲26.3	▲5.5	▲26.3	▲47.0	▲28.5	▲19.0	▲28.5(▲19.0)
製造	△18.7	△18.7	▲6.6	△6.6	±0.0	△31.2	△6.2(△18.7)
卸・小売	▲21.0	▲38.0	▲20.0	▲3.8	▲33.3	▲39.1	▲34.7(▲12.5)
サービス	▲6.2	▲6.6	△25.0	△30.7	▲15.3	▲7.6	△15.3(△7.6)



【平成31年3月の採算についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲27.3(前月水準▲32.4)となり、マイナス幅は5.1ポイント縮小した。

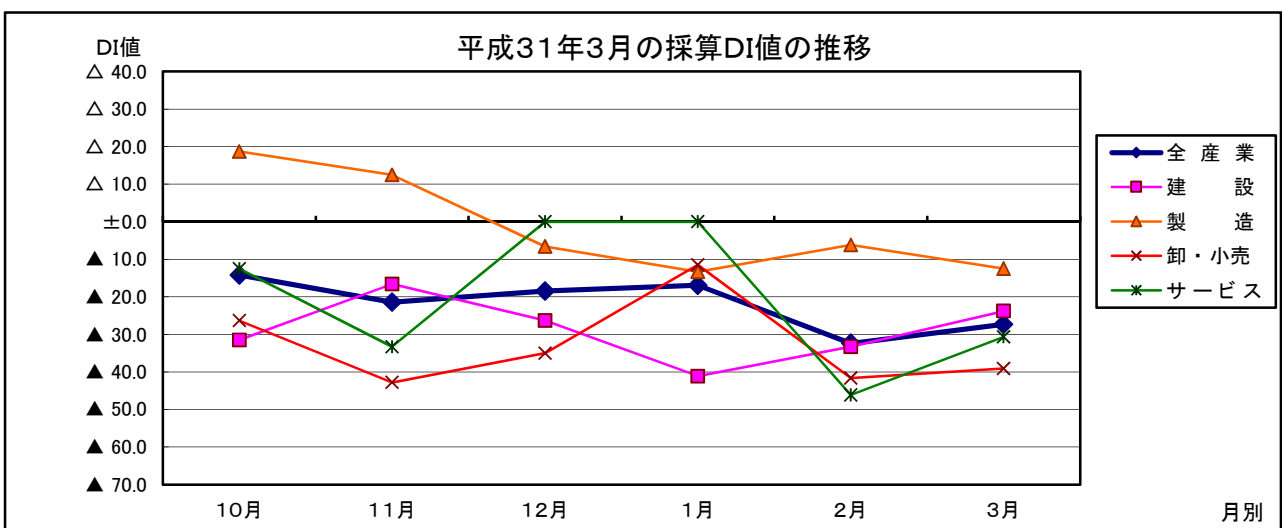
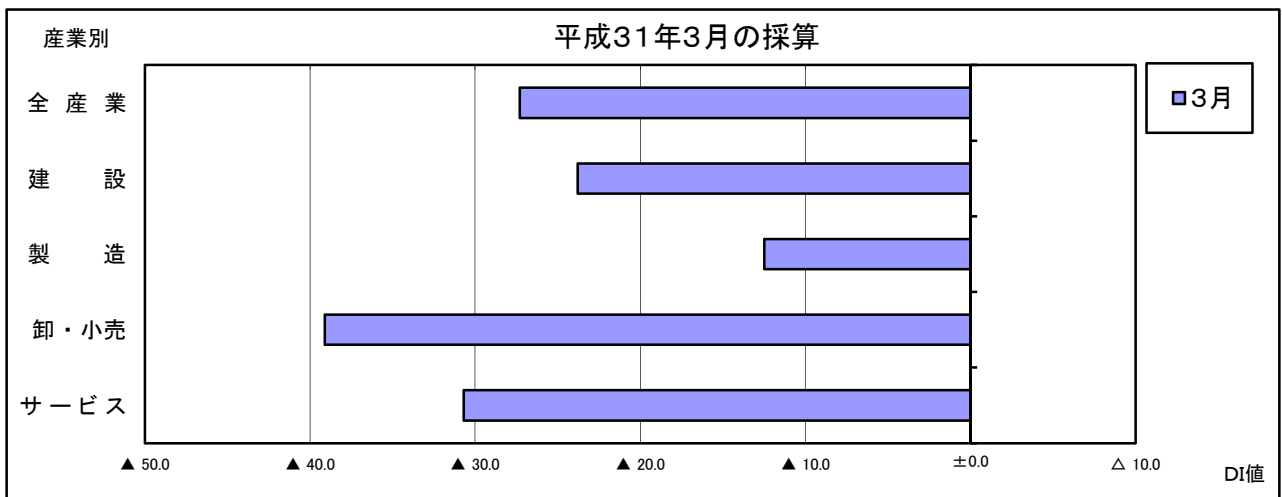
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲30.7(同▲46.1)、建設業▲23.8(同▲33.3)、卸小売業▲39.1(同▲41.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲12.5(同▲6.2)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲24.6(前月水準▲6.7)であり、マイナス幅が17.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△7.6(同±0.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業±0.0(同△18.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲47.8(同▲12.5)、建設業▲38.0(同▲23.8)である。

平成31年3月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 10月	11月	12月	平成31年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月～6月(3月～5月)
全産業	▲14.2	▲21.4	▲18.5	▲16.9	▲32.4	▲27.3	▲24.6(▲6.7)
建設	▲31.5	▲16.6	▲26.3	▲41.1	▲33.3	▲23.8	▲38.0(▲23.8)
製造	△18.7	△12.5	▲6.6	▲13.3	▲6.2	▲12.5	±0.0(△18.7)
卸・小売	▲26.3	▲42.8	▲35.0	▲11.5	▲41.6	▲39.1	▲47.8(▲12.5)
サービス	▲12.5	▲33.3	±0.0	±0.0	▲46.1	▲30.7	△7.6(±0.0)



【平成31年3月の仕入単価についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲42.4(前月水準▲29.7)となり、マイナス幅が12.7ポイント拡大した。

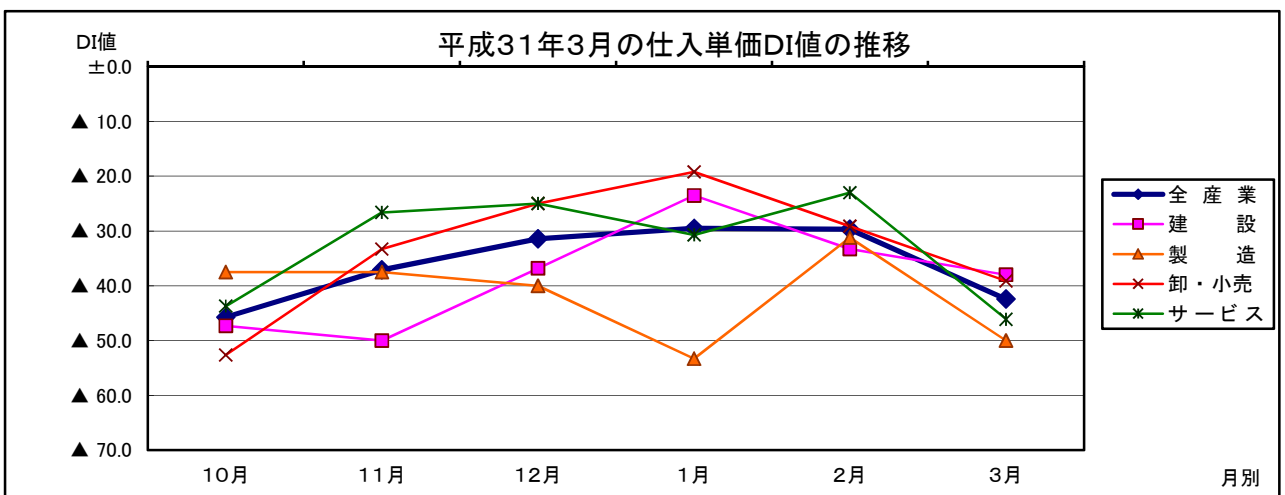
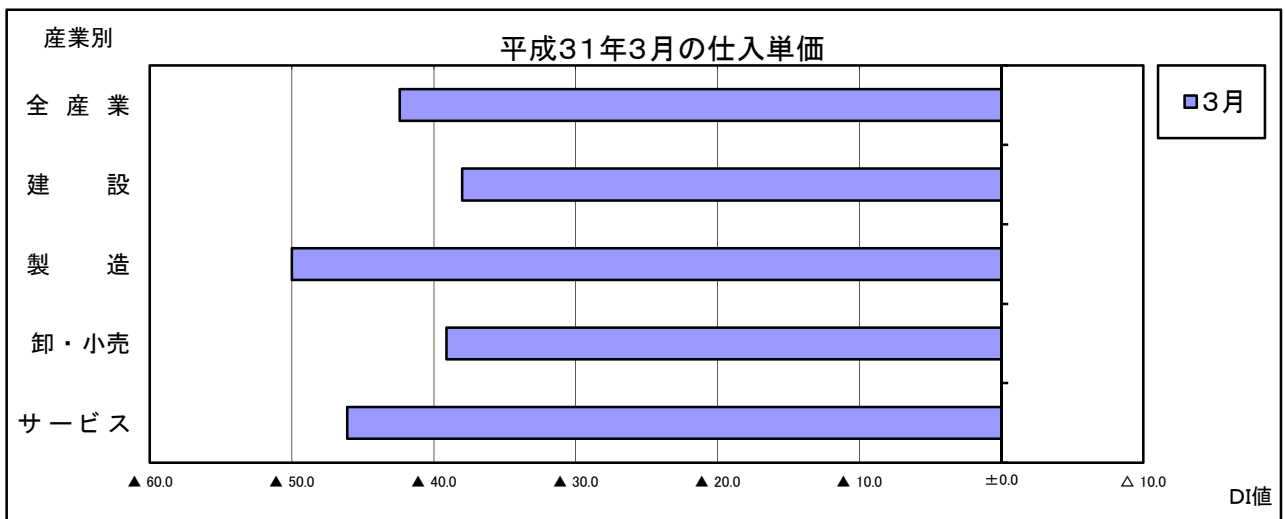
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲46.1(同▲23.0)、製造業▲50.0(同▲31.2)、卸小売業▲39.1(同▲29.1)、建設業▲38.0(同▲33.3)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲35.6(前月水準▲29.7)となり、マイナス幅が5.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲37.5(同▲43.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲47.6(同▲28.5)、サービス業▲23.0(同▲15.3)、卸小売業▲30.4(同▲29.1)である。

平成31年3月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 10月	11月	12月	平成31年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月～6月(3月～5月)
全産業	▲45.7	▲37.1	▲31.4	▲29.5	▲29.7	▲42.4	▲35.6(▲29.7)
建設	▲47.3	▲50.0	▲36.8	▲23.5	▲33.3	▲38.0	▲47.6(▲28.5)
製造	▲37.5	▲37.5	▲40.0	▲53.3	▲31.2	▲50.0	▲37.5(▲43.7)
卸・小売	▲52.6	▲33.3	▲25.0	▲19.2	▲29.1	▲39.1	▲30.4(▲29.1)
サービス	▲43.7	▲26.6	▲25.0	▲30.7	▲23.0	▲46.1	▲23.0(▲15.3)



【平成31年3月の従業員についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△28.7(前月水準△28.3)となり、プラス幅が0.4ポイント拡大した。

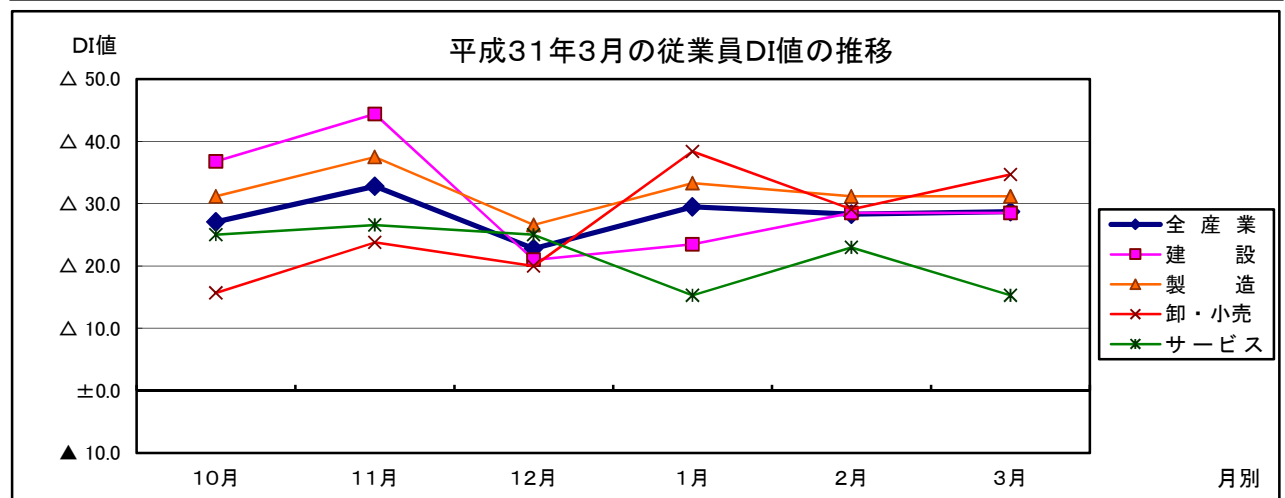
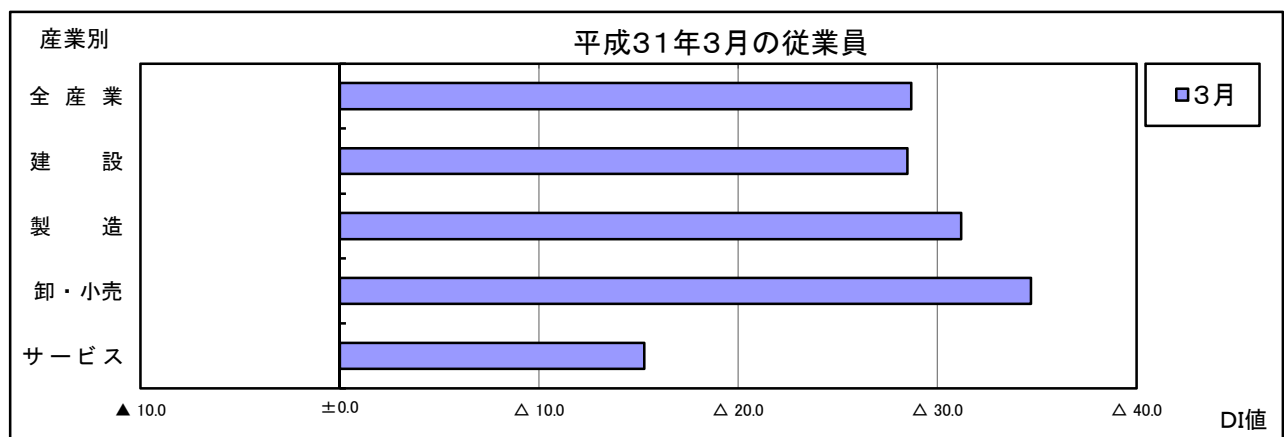
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、卸小売業△34.7(同△29.1)である。変らない業種は、建設業△28.5(同△28.5)、製造業△31.2(同△31.2)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△15.3(同△23.0)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、△28.7(前月水準△32.4)となり、プラス幅が3.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、変らない見通しの業種は、建設業△28.5(同△28.5)、サービス業△30.7(同△30.7)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業△21.7(同△29.1)、製造業△37.5(同△43.7)である。

平成31年3月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 10月	11月	12月	平成31年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月～6月(3月～5月)
全産業	△27.1	△32.8	△22.8	△29.5	△28.3	△28.7	△28.7(△32.4)
建設	△36.8	△44.4	△21.0	△23.5	△28.5	△28.5	△28.5(△28.5)
製造	△31.2	△37.5	△26.6	△33.3	△31.2	△31.2	△37.5(△43.7)
卸・小売	△15.7	△23.8	△20.0	△38.4	△29.1	△34.7	△21.7(△29.1)
サービス	△25.0	△26.6	△25.0	△15.3	△23.0	△15.3	△30.7(△30.7)



【平成31年3月の資金繰りについての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.3(前月水準▲12.1)となり、マイナス幅が0.2ポイント拡大した。

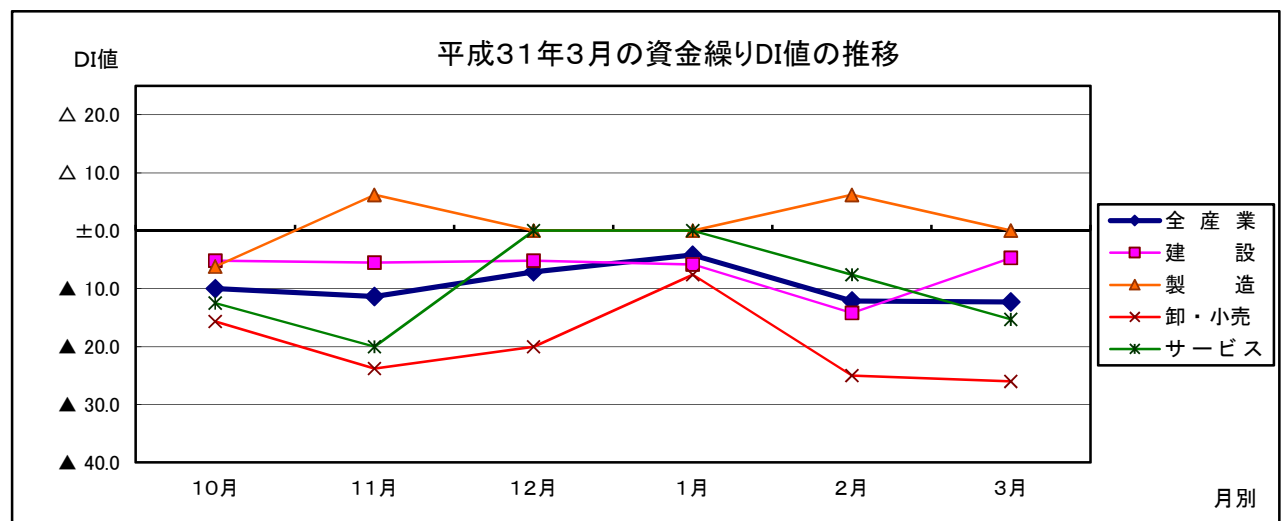
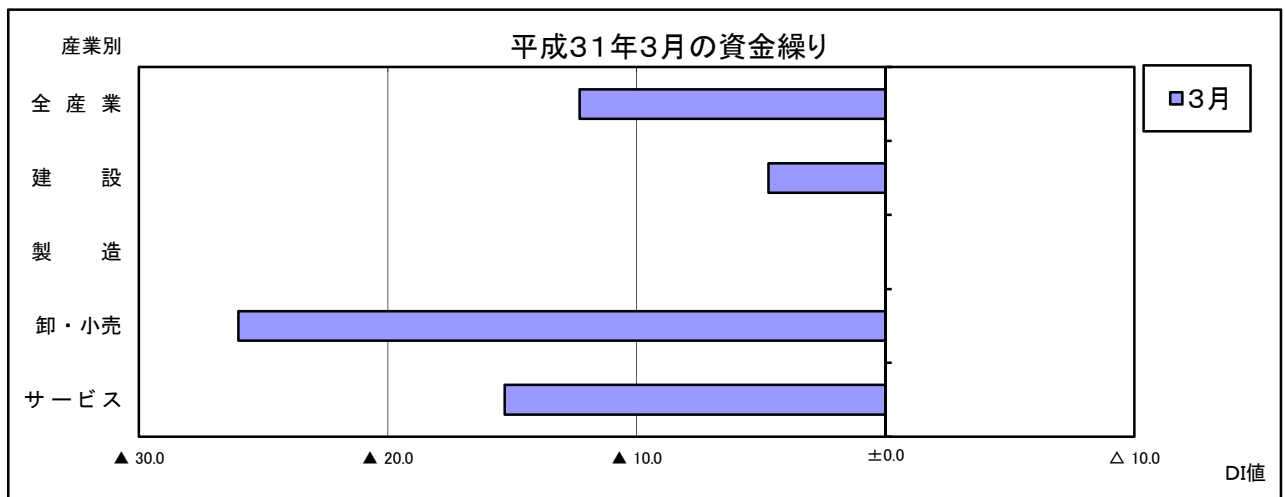
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲4.7(同▲14.2)である。プラス幅が縮小した業種は、製造業±0.0(同△6.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲15.3(同▲7.6)、卸小売業▲26.0(同▲25.0)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲13.6(前月水準▲5.4)となり、マイナス幅が8.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲4.7(同▲9.5)である。変らない見通しの業種は、製造業±0.0(同±0.0)、サービス業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲39.1(同▲8.3)である。

平成31年3月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成30年 10月	11月	12月	平成31年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月～6月(3月～5月)
全産業	▲10.0	▲11.4	▲7.1	▲4.2	▲12.1	▲12.3	▲13.6(▲5.4)
建設	▲5.2	▲5.5	▲5.2	▲5.8	▲14.2	▲4.7	▲4.7(▲9.5)
製造	▲6.2	△6.2	±0.0	±0.0	△6.2	±0.0	±0.0(±0.0)
卸・小売	▲15.7	▲23.8	▲20.0	▲7.6	▲25.0	▲26.0	▲39.1(▲8.3)
サービス	▲12.5	▲20.0	±0.0	±0.0	▲7.6	▲15.3	±0.0(±0.0)



【平成31年3月の調査結果のポイント】

《全産業況DIは6ヶ月ぶりに改善。先行きは不透明感残る結果に》

○3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲17.8(前月水準▲24.3)となり、マイナス幅が6.5ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲14.2(同▲33.3)、サービス業▲7.6(同▲23.0)、卸小売業▲30.4(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲12.5(同±0.0)である。

【建設業】からは、「問い合わせはそれなりにある。財布の紐は固い」(一般土木建築工事業)、「年度末は例年程の忙しさはなく、売上高、利益減少。稼働時間、日数も例年より少ない。4月から月に1度土日が作業禁止となり、益々売上維持が難しい。施工単価は下落し人員増加も厳しく、苦しい業況が続きそう」(職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「年度末、数字は伸びたがさほどではない。4月から紙の値段が15%も上昇、採算が心配」(印刷業)、「前月比売上は増加したが、過去の3月と比較すると10年前の数字まで下落。人材不足と地方の景気の悪さが影響。市況に合った人材の配置、業務改善が急がれる」(自動車付属品製造業)、「工事関係は年度末の納期が集中し時間外が大幅に増加。医療向け製品関係は工事予定日が不確定な為出荷待ち在庫が大幅に増加」(特殊産業用機械)、「大企業中心の経済の在り方に中小企業は振り回されている。更に厳しくなると思う」(印刷業)、「景況感はずいぶん、不透明(中国が大きくマイナス)」(金属素形材製品製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「売上は伸びたが、セール販売(特売、景品付き)の為に利益に繋がらない。来店客も増えたが、携帯写真にして買わないで帰る方がいる。通販や他店の価格で検討する客が多く、今後このような動向が増加すると思案。仕入価格は上昇してもすぐに販売価格に転嫁できない」(飲食料品小売業)、「気温の寒暖差もあるのか、2月下旬～3月は経験がない位悪かった。2月より3月の売上が少なかったのは初めて！客数が極端に減少」(婦人・子供服小売業)、「ホワイトデーは年々縮小傾向」(各種商品小売業)、「新学期商品終了後(5月以降)は売上減」(書籍・文房具小売業)、「セレクトショップ的な商品構成で好評を得ているが、当店商圏の年齢層がシニア過ぎて残念！」(書籍・文房具小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「3ヶ月連続で前年比売上高減少。宴会の客単価、予約数が減った。提供商品の安心安全をテーマに営業していく」(酒場・ビヤホール)、「輸送費上昇等の影響で、飲料関係の値上がりが見え始める。原価の圧迫を予想」(日本料理)、「国内貿易統計は数字が気になる。特に対中国貿易は劇的な減少。景気は大きな屈折点にさしかかったとみる。就職率は高度なパターンだが、賃金率が何故か横ばい。それでは購買意欲率は下がるのみ」(投資顧問)、「営業社員を1人採用。高齢者の方の資産売却、相続による土地売却が増加。また、低価格の戸建住宅、マンション、土地需要が堅調。収益物件の銀行融資は厳しい。レオパレス、シェアハウスの影響が出ている」(不動産管理業)、「移動シーズンで繁忙期中だが、例年より動きは鈍い。昨今の引越費用の高騰等で引越のタイミングをずらして分散、もしくは引越自体を見送る方の存在によるものか」(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

◎売上好調(一部含む)

「量工事の受注はますますだが、量小物の販売が増加。思いがけない増益は助かる」(内装工事業)、「売上高3ヶ月先行きについては減少の予定(半導体在庫調整)だったが、工業用ミシン部品で立ち上がりがあり増加」(金属素形材製品製造業)、「天候にも恵まれ、アパレル(衣料品)関連も堅調に推移。食物販関連は引き続き順調」(百貨店)、「春物(衣料)は好調に推移。気温と天候に恵まれた」(各種商品小売業)、「ひなまつりの売上が前年比増。卒業関連の注文は前年と変わらず」(菓子・パン小売業)、「年度末、賃貸物件は非常に好調。インフォメーションセンターの変更は痛手」(不動産賃貸業)、「ステーションモールは2階を食料品フロアにした事で、客数増加が継続している」(各種商品小売業)との声が寄せられた。

◎先行き不透明

「年度末の完成高は多かったが、先行き不透明感あり。各事業者の努力に頼っている現状」(電気工事業)、「昨年3月の松戸伊勢丹閉店から1年が経過し、今後の売上高の伸長は不透明。松戸市在住者の購入者数・売上高と伸長したが、足元商圏3市は前年割れ」(百貨店)、「働き方改革による人件費の増加が不安」(各種商品小売業)、「新年度の動向が読み切れず、不安あり」(ソフトウェア業)との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
10月	▲12.8	▲10.5	△6.2	▲36.8	▲6.2
11月	▲12.8	▲5.5	△12.5	▲38.0	▲13.3
12月	▲12.8	▲21.0	±0.0	▲30.0	△6.2
1月	▲19.7	▲23.5	▲20.0	▲26.9	±0.0
2月	▲24.3	▲33.3	±0.0	▲33.3	▲23.0
3月	▲17.8	▲14.2	▲12.5	▲30.4	▲7.6
見通し	▲19.1	▲23.8	△12.5	▲43.4	▲7.6

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 12.3	▲ 15.0	▲ 27.3	▲ 24.6	▲ 42.4	▲ 35.6	△ 28.7	△ 28.7
建設	▲ 19.0	▲ 28.5	▲ 23.8	▲ 38.0	▲ 38.0	▲ 47.6	△ 28.5	△ 28.5
製造	△ 31.2	△ 6.2	▲ 12.5	±0.0	▲ 50.0	▲ 37.5	△ 31.2	△ 37.5
卸・小売	▲ 39.1	▲ 34.7	▲ 39.1	▲ 47.8	▲ 39.1	▲ 30.4	△ 34.7	△ 21.7
サービス	▲ 7.6	△ 15.3	▲ 30.7	△ 7.6	▲ 46.1	▲ 23.0	△ 15.3	△ 30.7

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 17.8	▲ 19.1	▲ 12.3	▲ 13.6
建設	▲ 14.2	▲ 23.8	▲ 4.7	▲ 4.7
製造	▲ 12.5	△ 12.5	±0.0	±0.0
卸・小売	▲ 30.4	▲ 43.4	▲ 26.0	▲ 39.1
サービス	▲ 7.6	▲ 7.6	▲ 15.3	±0.0

【平成31年3月業種別業界内トピックス】

業種別	概 況	トピック	業種
建設	問い合わせはそれなりにある。財布の紐は固い。	消費動向不良	一般土木建築工事業
	年度末の完成高は多かったが、先行き不透明感あり。各事業者の努力に頼っている現状だ。	先行き不透明	電気工事業
	畳工事の受注はますますですが、畳敷物等、畳小物の販売が増加。いろいろな製品に手を出してんやわんやですが、思いがけない増益は助かります。	売上好調	内装工事業
	年度末は毎年忙しいが、今年は例年ほどの忙しさはなかった。当然売上高も減少、利益も減少となった。数件の仕入先からも今期は売上減少との事。稼働時間、稼働日数も例年より少ない。4月からは月に1度土日の作業禁止となる為、益々売上維持も難しい。施工単価が落ちてきている現状では、人員増加も厳しく、今後苦しい業況が続くそう。	売上減少	職別工事業
製造業	年度末という事で、多少数字は伸びたが、さほどでもない。それより4月から紙の値段が15%も上がる。採算が心配である。	経費増加	印刷業
	前月比売上は増加したが、過去の3月の売上と比較すると、10年前の売上まで落ちている。年度末の売上ではない。人材不足と地方の景気の悪さが影響している。市況に合った人材の配置、業務改善が急がれる。	売上減少 人材不足 景況感悪化	自動車付属品製造業
	売上高3ヶ月先行きについては減少の予定(半導体在庫調整)であったが、工業用ミシン部品で立ち上がりがあった為増加。景況感はマイナス、不透明(中国が大きくマイナス)。	売上増加 景況感悪化	金属素形材製品製造業
	工事関係は年度末の納期が集中し時間外が大幅に増加。医療向け製品関係は工事予定日が不確定なため出荷待ち在庫が大幅に増加していた。	年度末納期集中 在庫増加	特殊産業用機械
	大企業中心の経済の在り方に中小企業は振り回されている状況を感じるが更にこれから厳しくなると思う。	景況感悪化	印刷業
卸小売業	売上は伸びたが、セール販売(特売、景品付き)の為利益アップに繋がらない。来店客は増えたが、写メにして買わないで帰る来店客が見られる。通販や他店の価格で検討する客が多い。今後この様な客の動向が増加すると思われます。仕入価格は上昇してもすぐに販売価格に転嫁できない。	売上伸長も利益出ず 顧客動向変化 経費増加	飲食料品小売業
	天候にも恵まれ、アパレル(衣料品)関連も堅調に推移。食物販関連は引き続き順調。	売上好調	百貨店
	気温の寒暖差もあるのだろうが、2月下旬～3月は今までに経験がない位悪かった。2月より3月が売上が少なかったのは初めて！客数が極端に少なかった。	売上減少 客数減少	婦人・子供服小売業
	春物(衣料)は好調に推移。気温と天候に恵まれた。ホワイトデーは年々縮小傾向にあり。 新学期商品終了後(5月以降)は売上減。	売上好調	各種商品小売業
	昨年3月の松戸伊勢丹閉店から1年が経過し、今後の売上高の伸長は不透明。松戸市在住者の購入者数・売上高と伸長したが、足元商圏3市は前年割れ。	来月以降売上減少	書籍・文房具小売業
	セレクトショップ的な商品構成をしてそれなりに好評を得ているが、何せ当店商圏の年齢層がシニア過ぎて残念だ！	先行き不透明	百貨店
	今後、働き方改革による人件費の増加が不安。	顧客層の高齢化	書籍・文房具小売業
	ひなまつりの売上が前年比増。卒業関連の注文は前年と変わらず。	先行き不透明	各種商品小売業
	いい話がない。	売上好調(一部)	菓子・パン小売業
	ステーションモールは2Fを食料品フロアにしたことにより、客数増加が継続しています。	景況感悪化	食料・飲料卸売業
サービス業	前年対比において売上高減少が今年になり3ヶ月連続です。宴会の客単価、予約総数が減ってしまった。提供商品の安心安全をテーマに営業して参ります。	売上好調	各種商品小売業
	輸送費の上昇などの影響で、飲料関係の値上がりが顕著になり、原価の圧迫が予想される。	前年対比売上減少	酒場・ビヤホール
	米中経済戦争、EU、離脱論議の英国、米国での11年ぶりの逆イールドスプレッド(短期金利が長期金利を上回る)。来年度のトランプ大統領自身の選挙にも関わる重要な案件ばかりで、そろそろ収まりをつけなければならない。国内貿易統計も数字が気になる。対中国貿易は劇的な減少。景気は大きな屈折点にさしかかったとみる。就職率は高度なパターンだが、賃金率はなぜか横ばい。これでは購買意欲率は下がるのみ。要はぬるま湯の日本経済。株価は新元号の影響で5、6月にショックあるか。しかし、来年の選挙に絡みトランプ氏の行動によっては、来年度のオリンピックへ向け大きくジャンプもあるだろう。	経費増加	日本料理
	営業社員を1人採用しました。高齢者の方の資産売却、相続による土地売却が増えています。低価格の戸建住宅、マンション、土地需要が相変わらず堅調です。収益物件の銀行から融資は厳しくなっています。レオパレス、シェアハウスの影響が出ています。	ぬるま湯経済の日本	投資顧問
	年度末、賃貸物件は非常に好調です。インフォメーションセンターの変更は痛手。	低価格商品需要 不動産融資状況	不動産管理業
	移動シーズンという事で繁忙期中ですが、例年より動きが鈍いです。昨今の引越費用の高騰等で引越のタイミングをずらして分散、もしくは引越自体を見送る方が多少なりとも存在しての事かもしれません。	売上好調	不動産賃貸業
	新年度の動向が読み切れず、不安がありますね。	消費動向不良	不動産賃貸・管理業
		先行き不透明	ソフトウェア業

◎売上好調(一部含む)

「畳工事の受注はまずまずだが、畳小物の販売が増加。思いがけない増益は助かる」(内装工事業)、「売上高3ヶ月先行きについては減少の予定(半導体在庫調整)だったが、工業用マシン部品で立ち上がりがあり増加」(金属素形材製品製造業)、「天候にも恵まれ、アパレル(衣料品)関連も堅調に推移。食物販関連は引き続き順調」(百貨店)、「春物(衣料)は好調に推移。気温と天候に恵まれた」(各種商品小売業)、「ひなまつりの売上が前年比増。卒業関連の注文は前年と変わらず」(菓子・パン小売業)、「年度末、賃貸物件は非常に好調。インフォメーションセンターの変更は痛手」(不動産賃貸業)、「ステーションモールは2階を食料品フロアにした事で、客数増加が継続している」(各種商品小売業)との声が寄せられた。

◎先行き不透明

「年度末の完成高は多かったが、先行き不透明感あり。各事業者の努力に頼っている現状」(電気工事業)、「昨年3月の松戸伊勢丹閉店から1年が経過し、今後の売上高の伸長は不透明。松戸市在住者の購入者数・売上高と伸長したが、足元商圈3市は前年割れ」(百貨店)、「働き方改革による人件費の増加が不安」(各種商品小売業)、「新年度の動向が読み切れず、不安あり」(ソフトウェア業)との声が寄せられた。

平成31年3月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲17.8に対し、「CCI-LOBO」が▲16.9で柏の方がマイナス幅が0.9ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業である。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲12.3に対し、「CCI-LOBO」が▲10.4で柏の方がマイナス幅が1.9ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業であり、10ポイント以上大きい。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、建設業、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲27.3に対し、「CCI-LOBO」が▲15.7で柏の方がマイナス幅が11.6ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲42.4に対し、「CCI-LOBO」が▲40.6で柏の方がマイナス幅が1.8ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業、サービス業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△28.7に対し、「CCI-LOBO」が△25.5で柏の方がプラス幅が3.2ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業であり、10ポイント以上大きい。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、サービス業であり、10ポイント以上大きい。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲12.3に対し、「CCI-LOBO」が▲10.4で柏の方がマイナス幅が1.9ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業である。

平成31年3月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI≥50	好調 50>DI≥25	まあまあ 25>DI≥0	不振 0>DI≥▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 17.8	 ▲ 14.2	 ▲ 12.5	 ▲ 30.4	 ▲ 7.6
CCI—LOBO	 ▲ 16.9	 ▲ 5.8	 ▲ 16.6	 ▲ 29.5	 ▲ 11.7

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 12.3	 ▲ 19.0	 31.2	 ▲ 39.1	 ▲ 7.6
CCI—LOBO	 ▲ 10.4	 0.0	 ▲ 5.0	 ▲ 28.7	 ▲ 6.0

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 27.3	 ▲ 23.8	 ▲ 12.5	 ▲ 39.1	 ▲ 30.7
CCI—LOBO	 ▲ 15.7	 ▲ 6.8	 ▲ 17.5	 ▲ 24.3	 ▲ 16.0

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 42.4	 ▲ 38.0	 ▲ 50.0	 ▲ 39.1	 ▲ 46.1
CCI—LOBO	 ▲ 40.6	 ▲ 43.1	 ▲ 51.5	 ▲ 33.7	 ▲ 36.3

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 28.7	 28.5	 31.2	 34.7	 15.3
CCI—LOBO	 25.5	 39.7	 14.4	 24.3	 32.3

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 12.3	 ▲ 4.7	 ±0.0	 ▲ 26.0	 ▲ 15.3
CCI—LOBO	 ▲ 10.4	 ▲ 2.7	 ▲ 11.4	 ▲ 17.2	 ▲ 9.0

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(3月速報)

調査期間：平成31年3月13日～19日

調査対象：全国の363商工会議所が2747企業
にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、一進一退の動き。先行きは懸念材料多く、慎重な見方変わらず

3月の全産業合計の業況DIは、▲16.9と、前月から+1.2ポイントの改善。ただし、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、

実体はほぼ横ばい。堅調な民間工事を中心とする建設業に加え、春の観光シーズン到来によりインバウンドを含む観光需要が好調に推移した一方、受注が減少した半導体や産業用機械、自動車関連を中心とする製造業の業況感が悪化した。深刻な人手不足の影響拡大や原材料費の高止まり、根強い消費者の節約志向を指摘する声は依然として多く、中小企業の業況改善に向けた動きは力強さを欠く。

先行きについては、先行き見通しDIが▲19.1（今月比▲2.2ポイント）と悪化を見込むものの、「好転」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。個人消費の拡大やインバウン

ドを含めた春の観光需要拡大への期待感がうかがえる。他方、人手不足の影響の深刻化や、原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁遅れ、貿易摩擦の激化、世界経済の動向、消費増税の影響など不透明感が増す中、中小企業においては、先行きへの慎重な姿勢が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、製造業で悪化、卸売業でほぼ横ばい、その他の3業種で改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「オフィスビルやホテル建設などの再開発関連工事が多く、売上は改善。収益増を従業員へ還元するとともに、新規人材の確保につなげるため、ベースアップを実施した」（一般工事業業、「人手不足の深刻化による受注機会の損失に加え、人

件費・外注費の増大や建設資材価格の高止まりを背景に、収益の確保にも苦戦している」（管工事業業）

【製造業】「米中貿易摩擦の影響に加え、『シリコンサイクル』も調整局面に入っており、前年に比べ受注は激減している。今後も好材料に乏しく、しばらくは売上高の前年割れは避けられない」（半導体部品等製造業、「受注を安定的に確保できており、売上は堅調。だが、人手不足が深刻化する中、4月から施行される年次有給休暇の取得義務化への対応に苦慮している」（金属製品製造業）

【卸売業】「建設業からの引き合いが好調で、売上は改善だが、中国向けを中心に輸出は減少しつつあり、現状の受注量を維持できるか不安である」（建設資材等卸売業、「好天を背景とした豊作から、白菜や大根などの農産物価格が下落し、前年に比べ売上は落ち込んだ。4月以降も好天が予想されるため、売上減の長期化は避けられない」（農産物卸売業）

【小売業】「春の観光シーズンの滑り出しが良く、インバウンドのほか、国内観光客の数も伸びている。10連休の需要取り込みに向けて広告宣伝活動を強化し、さらなる売上増を図る」（各種商品小売業、「消費者の節約志向から、主力の衣料品の売れ行きが鈍く、売上は悪化。世界経済の不透明感が高まる中、富裕層の高額品消費にも陰りが見られる」（百貨店）

【サービス業】「省力化を目的とした開発案件が増加しているほか、5月1日の改元に伴うシステム改修の依頼も多く、売上は改善した」（ソフトウェア業、「引越したり貨物配送など、年度末の配送需要がピークを迎えているが、深刻な人手不足から受注しきれない。賃上げを実施したが、依然としてドライバの確保に難航しており、人手不足の解消にはつながらなかった」（運送業）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
10月	▲17.2	▲10.7	▲10.2	▲24.9	▲29.3	▲15.2
11月	▲14.9	▲9.9	▲10.2	▲9.3	▲29.2	▲13.2
12月	▲15.7	▲8.1	▲9.7	▲17.1	▲31.6	▲12.4
1月	▲16.0	▲6.3	▲12.0	▲17.9	▲36.3	▲8.6
2月	▲18.1	▲8.5	▲12.2	▲23.1	▲32.4	▲15.6
3月	▲16.9	▲5.8	▲16.6	▲22.4	▲29.5	▲11.7
見通し	▲19.1	▲6.8	▲21.4	▲27.1	▲29.8	▲12.3

柏の景気情報

(3月の調査結果のポイント)

調査期間：平成31年3月26日～4月8日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に
ヒアリング、回答数75件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
10月	▲12.8	▲10.5	△6.2	▲36.8	▲6.2
11月	▲12.8	▲5.5	△12.5	▲38.0	▲13.3
12月	▲12.8	▲21.0	±0.0	▲30.0	△6.2
1月	▲19.7	▲23.5	▲20.0	▲26.9	±0.0
2月	▲24.3	▲33.3	±0.0	▲33.3	▲23.0
3月	▲17.8	▲14.2	▲12.5	▲30.4	▲7.6
見通し	▲19.1	▲23.8	△12.5	▲43.4	▲7.6

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

「**柏市の業況**」
全産業況D Iは6ヶ月ぶりに改善。先行きは不透明感残る結果に

3月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲17.8(前月水準▲24.3)となり、マイナス幅が6.5ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲14.2(同▲33.3)、サービス業▲7.6(同▲23.0)、卸小売業▲30.4(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲12.5(同±0.0)と10年前の数字まで下落。

0.0)である。

【建設業】からは、「問い合わせは伸びたが、セールの販売(特売、景品付き)の為利益に繋がる。来お客も増えたが、携帯写真にして買わないで帰る方がいる。通販や他店の価格で検討する客が多く、今後この様な動向が増加すると思案。仕入価格は上昇してもすぐに販売価格に転嫁できない(飲食料品小売業、「気温の寒暖差もあるのか、2月下旬3月は経験がない位悪かった。2月より3月の売上が少なかったのは初めて!客数が極端に減少(婦人・子供服小売業)」、「ホワイトデーは年々縮小傾向(各種商品小売業)」、「新学期商品終了後(5月以降)は売上減(書籍・文房具小売業)」、「セレクトショップ的な商品構成で好評を得ているが、当店商圏の年齢層がシニア過ぎて残念!」(書籍・文房具小売業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「売上は伸びたが、セールの販売(特売、景品付き)の為利益に繋がる。来お客も増えたが、携帯写真にして買わないで帰る方がいる。通販や他店の価格で検討する客が多く、今後この様な動向が増加すると思案。仕入価格は上昇してもすぐに販売価格に転嫁できない(飲食料品小売業、「気温の寒暖差もあるのか、2月下旬3月は経験がない位悪かった。2月より3月の売上が少なかったのは初めて!客数が極端に減少(婦人・子供服小売業)」、「ホワイトデーは年々縮小傾向(各種商品小売業)」、「新学期商品終了後(5月以降)は売上減(書籍・文房具小売業)」、「セレクトショップ的な商品構成で好評を得ているが、当店商圏の年齢層がシニア過ぎて残念!」(書籍・文房具小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「3ヶ月連続で前年比売上高減少。宴会の客単価、予約数が減った。提供商品の安心安全をテーマに営業していく(酒場・ビヤホール)」、「輸送費上昇等の影響で、飲料関係の値上がりが目撃。原価の圧迫を予想(日本料理)」、「国内貿易統計は数字が気になる。特に对中国貿易は劇的な減少。景気は大きな屈折点にさしかかったとみる。就職率は高度なバターンだが、賃金率が何故か横ばい。それでは購買意欲率は下がるのみ(投資顧問)」、「営業社員を1人採用。高齢者の方の資産売却、相続による土地売却が増加。また、低価格の戸建住宅、マンション、土地需要が堅調。収益物件の銀行融資は厳しい。レオパレス、シェアハウスの影響が出ている(不動産管理業)」、「移動シーズンで繁忙期中だが、例年より動きは鈍い。昨今の引越費用の高騰等で引越のタスキングをずらして分散、もしくは引越自体を見送る方の存在によるものか(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

【3月の景気キーワード】
◎売上好調(一部含む)
「畳工事の受注はますますだが、畳小物の販売が増加。思いがけない増益は助かる」(畳店製造小売業)、「売上高3ヶ月先行きについては減少の予定(半導体在庫調整)だったが、工業用ミシン部品で立ち上がりがあり増加(金属素材材製品製造業)」、「天候にも恵まれ、アパレル(衣料品)関連も堅調に推移。食物販関連は引き続き順調(百貨店)」、「春物(衣料)は好調に推移。気温と天候に恵まれた(各種商品小売業)」、「ひなまつりの売上が前年比増。卒業関連の注文は前年と変わらず(菓子・パン小売業)」、「年度末、賃貸物件は非常に好調。インフォメーションセンタールの変更は痛手(不動産賃貸業)」、「ステーションモールは2階を食料品フロアにした事で、客数増加が継続している(各種商品小売業)との声が寄せられた。

◎先行き不透明
「年度末の完成高は多かったが、先行き不透明感あり。各事業者の努力に頼っている現状(電気工事業)」、「昨年3月の松戸伊勢丹閉店から1年が経過し、今後の売上高の伸長は不透明。松戸市在住者の購入者数・売上高と伸長したが、足元商圏3市は前年割れ(百貨店)」、「働き方改革による人件費の増加が不安(各種商品小売業)」、「新年度の動向が読み切れず、不安あり(ソフトウェア業)との声が寄せられた。

全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-1080)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲17.8に対し、「CCI-1080」が▲16.9で柏の方がマイナス幅が0.9ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業である。